

ゲノム編集トマトのターゲットは子どもも達だつた

生態系に影響大 安全性は

食の問題 印論氏、ゲノム編集を言及

日本の農と食を考えるシンポジウムにおいて世界の食の問題研究家OKシードプロジェクト事務局長の印論智哉氏が「何が問題『ゲノム編集』? 日本の『ゲノム編集トマト』のターゲットは子ども達だつた!」というテーマで来賓講演を行った。自分たちが安全な食を守るといふ強いメッセージとOKシードプロジェクトを進めていこうと呼びかけた。

OKシードプロジェクトを進めよ!

第13回日本の農と食を考えるシンポジウム



ゲノム編集について話を聞く参加者



印論氏

印論智哉氏はゲノム編集について言及。ゲノム編集技術は、遺伝子組み換えではない

下手したらカンなどで死んでしまう。また、目的の遺伝子を破壊できた場合に想定外のタンパク質が作られた例もある。これまで「たんばく質」に対して「遺伝子」と考えられてきたが、遺伝子の数約2万に対してタンパク質の種類は10万以上あり、様々な機能が有機的にタンパク質を作っていることがわかってきた。このことから一つの遺伝子を破壊してしまうと多くの影響を及ぼすと推測されるのである。ゲノム編集が環境に与える影響として、微生物叢の構成を変える・植物の栄養気を変える・植物同士のコミュニケーションを変える・交雑により広がる・花粉の媒介者に影響を与える・有毒あるいはアレルギーの元になる物質を形成する・食物連鎖に影響を与えるなどがあり、

どうたわれている。しかしその過程で外部遺伝子を挿入し、挿入した遺伝子抜き取る作業をしているだけである。特定の遺伝子を壊すのがゲノム編集だが、ターゲットへの命中率は100%ではない。似ている別の遺伝子を破壊する可能性も十分ある。これがオフターゲット

ターゲット問題。一つ、オンターゲット問題として染色体破壊という問題がある。特定の遺伝子を集中攻撃というのは自然界では起こりえない現象である。この集中攻撃を繰り返すことで染色体が破壊または欠損してしまう。染色体が機能しないと、子孫を作れなくなったり

母乳育児 食材にこだわり

JPHMA認定 西田助産師が語る



西田つや子さん

事例発表「健康であるために!」などといった食事が大事。西田つや子(助産師、JPHMA認定ホメオパ

た。お母さんの食べる食事の質により、母乳を飲む頻度も変わってくるそうです。産後の母乳育児のためにも食材にこだわった、野菜を中心とした自然な食事を提供することにこだわっていること。

食の質により、母乳を飲む頻度も変わってくるそうです。産後の母乳育児のためにも食材にこだわった、野菜を中心とした自然な食事を提供することにこだわっていること。

食の質により、母乳を飲む頻度も変わってくるそうです。産後の母乳育児のためにも食材にこだわった、野菜を中心とした自然な食事を提供することにこだわっていること。

健康野菜スープ 豊受自然農加工部 廣瀬智美さん

健康野菜スープについて豊受自然農加工部の廣瀬さんから次のような発表がなされた。

加工部では、安心安全な加工品を一人でも多くの人々に提供し、健康になつてほしいという想いから、現在およそ83種類の商品を作成しています。

現代人は非常に多くの人工物に囲まれている。私達も大量生産された型農業を進めていく中で人工物とは切っても切れない関係です。豊受自然農で動いているからこそ、加工で使った道具から心を込めて育てた身体が喜ぶ野菜たちを使つて、簡単に手軽に食べられるような加工品、自信を持って勧められる商品を作成しています。

自家製のベランダで農業 レメディー 御古園 菅原美和子さん

レメディーや御古園などの力も借りながら、ベランダで農業を始めました。会員体験発表とよいうけ会員の菅原美和子さんからは、東京の自宅のベランダで17、8種類もの野菜やハーブを育てている様子をご紹介していただきました。



「豊受、野菜は安心・安全で美味しい」と由井代表

問題の全容を知らえることが重要である点を力説した。また、由井代表はメディアが煽る災害巨大化報道と地球温暖化キャンペーンの不都合な真実についても言及した。渡辺正

東京理科大学教授が地球温暖化は国連に連なる一部の利権によるキャンペーンであることを解説した。動画を紹介。「そもそも地球は温暖化していない。都会はコンクリート砂漠での電気使用量で温

度は上がっていますが、人口のない地域の平均気温は変わっていない。南極の気温は下がり気味です。地球の温度は周期的に上がり下がりしており、シロクマの頭数は減つてなく増えている。ツバルの海面は上がって

なく、NHKのスタッフは記録的な大潮の時を狙って撮影にいった。明治の初めごろから世界1800の地点での潮位はほとんど変わっていない」といった点も紹介した。